



## 第3回同窓会及び青年学級



同窓会は、今年度も計画通りに全3回の活動を無事終えることができました。今年度最後となった第3回同窓会及び青年学級は、森養祭の舞台発表や販売の見学の後、1年間の振り返りを行いました。また、同窓会と同時開催されている青年学級の閉級式も行われました。コロナ禍以来、久しぶりに森養祭全日程の見学で、十数年前の卒業生が、高等部の舞台発表がなくなったことに驚いていたり、小学部や中学部の子どもたちが一生懸命に発表する姿を真剣に見学したりしていました。中学部、高等部の販売の見学では、作業学習の製品や、後輩たちの販売の様子を見て、在学中のことを懐かしく思い出しながら、お世話になった先生方や仲間との思い出話に花を咲かせていました。1年間の振り返りでは、今年度の活動の様子を写真で振り返りました。そして、次年度の活動に向けてアンケートを実施しました。



母校は、港のようなものだという話をきいたことがあります。出港した卒業生たちは、それぞれの進路へと旅立ち、それぞれの場で自分の生活を築いていきますが、時間ができたときや節目のとき、または少し心が疲れたときなど、時々港に戻り立ち寄っていくと……。卒業生の方たちにとって、母校はそんな港のような場所であってほしいと思いました。久しぶりにたくさんの仲間や後輩、先生と嬉しそうに笑顔で交流している姿を見て、仲間や先生たちとの交流の機会として



の同窓会及び青年学級の大切さを実感しました。これからも卒業生たちにとって、憩いの場とかけがえのない時間となるような同窓会にしていきたいと思います。

## 二十歳のお祝い

同窓会の日に、「二十歳のお祝い」が行われました。今年度は、9名の同窓会員のの方が二十歳を迎えます。この日は4人の方が出席し、同窓会から記念品と、在籍時の先生方からおくる言葉「二十歳のお祝いのメッセージ」を贈呈しました。最後に二十歳を迎えた感想やこれからの抱負などを発表しました。これから卒業する皆さん、同窓会への入会をお待ちしております。



## ちょっといい話

「ママって言って欲しい」そんな思いで、ことばの教室へ通った子がいました。学校に入る頃には、4語くらい話せるようになりました。でも、そのうち2語は「いや〜」「やめて〜」…。それでも諦めずに、オウム返しの中にも、自分の希望が入るように話しかけたり、場面ごとにたくさんの言葉を聞かせたりと、「ことばの種まき」をしてきました。社会人になった今でも、たくさん話しています。

今では、母が仕事で疲れている時に、洗濯を手伝ってくれます(有料ですが…)。「〇〇くんが手伝ってくれるから、お母さんたすかるなあ」とポソツと言うと、「どういたしまして」と返ってきました。

ある保護者の方のつぶやきです。大人になるまでに、いろんなことがあったけれど、絶え間ない働きかけに頭が下がる思いです。それと同時に、大人になって誰かの役に立てていることの素晴らしさを感じました。